地域づくり協議会×議会　～みんなで未来を語る会～

「地域と議会の関係を一緒に考える」　　まとめ

　意見交換を行い各グループから出された活動内容、地域課題、議会への提案、望ましい関係性についての整理は以下の通りである。

1. グループ別の意見・協議内容の整理

■ グループ①

- **参加者・記録**: 記録担当：久保幸子議員／参加：みそみ地域づくり協議会、地域づくり協議会　鳥羽を考える会、若狭町議会（熊谷議長、北原議員、久保議員）
- **活動内容と課題**: 人口減少に伴い地域活動が縮小しており、地域づくり協議会の活動を支える人材の確保・育成、および役員の後継者探しが非常に難しい状況にある。交流行事・福祉・子育て・環境整備など幅広い活動を展開しているが、持続的な運用のための担い手確保が最大の課題となっている。
- **議会を身近にするアイデア・声の届け方**: 議会だより等の広報充実や、若い世代・子育て世代（子供会や PTA 等）との交流・意見交換の機会を設けることが提案された。集落ごとの座談会、テーマ別政策ワークショップ、世代別・各種団体向けワークショップの開催のほか、評価・改善の双方を受け付ける「声ポスト」の設置などのアイデアが出された。
- **望ましい関係性**: 女性の声をより積極的に聴くことや、各地域の課題・要望を全議員で共有し、議会として政策の確認・検証や議員間討論を充実させることが求められている。

■ グループ②

- **参加者・記録**: 記録担当：岩本克己議員／参加：熊川地域づくり協議会、明倫地域づくり協議会、若狭町議会（藤田議員、岩本議員）
- **活動内容と課題**: 人口減少により地域活動が縮小する中、高齢者への取り組みとして部会メンバーの訪問や特殊詐欺被害防止講習会を実施している。また、ホタル観賞会やサロン、ピラティス教室など交流の場づくりを企画しているが、各取り組みへの若者の参加が少ない。熊川小学校・明倫小学校の廃校校舎の有効活用について地域内での検討が進められており、若者の参加が期待できる企画や SNS による発信、ハロウィンに合わせたイベントや文化祭の開催に取り組んでいる。
- **議会を身近にするアイデア・声の届け方**: 議会だより等の広報誌は改善されているものの、形式や内容に硬さが残っているとの指摘があった。LINE 登録の普及によ

る活用推進や、議員が地区の会議に出席して近況報告を行うことで、より身近に感じられる環境づくりが提案された。
- **望ましい関係性**: 毎年 1 回は意見交換会を開催し、前年度のフィードバックを行うことが望まれている。また、地域づくり協議会が住民の声を拾って議会に届ける役割を果たすとともに、意見交換会を世代ごとに開催して広く声を聴く機会を創出することが期待されている。

■ グループ③

- **参加者・記録**: 記録担当：中村美穂議員／参加：気山・上瀬地域づくり協議会、地域づくり協議会野木を創る会、若狭町議会（中村議員、増井議員、檜鼻議員）
- **活動内容と課題**: 各地区で高齢化や人口減少が進み、若者の参加不足や団体の縮小（「きざんの会」の消失やサツマイモ掘り等への手伝い・園児の減少など）が発生している。人手不足により「どの会も同じ人が役員を兼任している」ことが常態化しており、組織や役職のあり方自体を見直す必要性が指摘されている。
- **議会を身近にするアイデア・声の届け方**: 議員に「言ってきて」と待つのではなく、現場や集落の会議、地区要望の場、公民館へ直接出向くこと（ひざをつきあわせた対話）が求められている。ネット、SNS、Zoom の活用や、地域の行事・小規模コミュニティへの積極的な参加が提案された。
- **望ましい関係性**: 議員個人の活動報告（年 1 回の議会だより等）の実施や、特定の「地区しばり」を超えて若狭町全体としての視点で課題を捉える姿勢が望まれている。教育・福祉・高齢化などジャンルやテーマごとに議会がどう考えているかを示すことが期待されている。

■ グループ④

- **参加者・記録**: 記録担当：川島富士夫議員／参加：きらやま地域づくり協議会（髭会長、江戸事務局長）、三宅地区地域づくり協議会（百田会長、岩本副会長）、若狭町議会（川島議員、倉谷議員）
- **活動内容と課題**: 防災、人づくり、地域振興（ささえる部会、つなぐ部会等）に取り組んでいるが、各種団体と地域内・町とのつながりが希薄化している。30～40 代の参加が難しく活動が定着しにくいことや、有志のみでの限界、地域づくり協議会自体の認知度の低さが課題として挙がった。
- **議会を身近にするアイデア・声の届け方**: 住民側が議員に対して壁（一線）を感じているため、サロンや集落行事に議員が自ら出向いて世間話に加わるような、仰々しくない日常的な交流が求められている。地協や公民館の活動予定・会議情報を町の HP や公式 LINE で共有し、それを見た議員が自発的に足を運ぶ仕組みが提案された。

- **望ましい関係性**: 自身の選出地域以外のエリアにも気軽に足を運ぶことで町全体の共通課題を把握し、行政とのつながりや認知度の低さを解消していくことが望まれている。

■ グループ⑤

- **参加者・記録**: 記録担当：速水真由子議員／参加：梅の里地域づくり協議会、瓜生地区地域づくり協議会、若狭町議会（速水議員、谷川議員）

- **活動内容と課題（組織基盤の強化と活動の精選）**:
    - **組織基盤の強化と負担解消**: 特定メンバーへの負担集中を解消し、若い世代や新しく入る人が気軽に参加できる環境づくりが不可欠である。参加を促す工夫として、活動の中に「楽しいこと」や「美味しいもの」をうまく取り入れること、および地域の中で先導役となる「キーパーソン」の存在と育成が極めて重要であると指摘された。
    - **生活直結課題への選択と集中**: 高齢者見守り、防災、空き家対策など住民の生活に直結する取り組みを優先し、「地域の絆を強くする」という本質的な目的を見失わない範囲で活動を精選・整理する。また、担い手の負担を軽減するために既存イベントを集約する工夫が必要であると提言された。
- **議会を身近にするアイデア・声の届け方（対話手法と姿勢）**:
    - **アナログとデジタルの併用**: 住民の多様な生活スタイルに合わせ、対面（アナログ）とデジタルツールの双方向的な利点を組み合わせた対話手法を導入することが提案された。
    - **動員から自発的訪問への転換**: 住民を会場に集める従来の「動員方式」ではなく、議会・議員が自ら地域や集落の現場へ足を運ぶ主体的・自発的な姿勢（「出向く対話」）に転換することが強調された。
- **望ましい関係性**:
    - 住民との心理的距離を縮めるために対面対話の価値を再評価し、議員が地域に飛び込んで日常的な関わりを持つことで、住民と議会が信頼関係に基づき課題を共有・解決していく関係性の構築が期待されている。

---

2. 議会としての共通課題

各グループの対話記録を総合的に分析すると、若狭町における地域づくりと議会活動に関して、以下の **４つの共通課題** が抽出される。

課題カテゴリー	主な課題内容と要因	統合された意見・視点
1. 担い手・後継者不足と特定個人への役割集中	少子高齢化・人口減少に伴う役員不足、役職兼任の常態化、組織の持続可能性の低下	役員の兼任や有志頼みの限界（グループに加え、特定メンバーへの負担集中を解消するため「若い世代の気軽な参加」「楽しい・美味しい要素の導入」「キーパーソンの確保」が必要
2. 認知度不足と活動の選択・集中	地協活動の認知度の低さ、住民・関係機関との距離感、活動過多による疲弊	活動の認知不足や各種団体との希薄化に対し、高齢者見守り・防災・空き家など「生活に直結する活動の優先」と「イベントの集約」による活動精選が必要
3. 議会・議員と住民の間の距離と対話手法	議員への壁・敷居の高さ、「待ち」姿勢への不満、多様な生活スタイルへの対応不足	議員が自ら現場（サロン・行事・公民館）へ出向く「ひざをつきあわせた対話」に加え、アナログとデジタルの併用や対面対話の価値再評価
4.「地区しばり」による全体的・テーマ別議論の不足	地元地区の要望対応への偏重、町全体視点やテーマ別（教育・福祉等）の議会見解の不足	自選出地域以外のエリア把握や町全体課題の共有、テーマ別議論への展開

---

3. 今後の議会改革に向けた方向性

各グループの議論に基づき、今後の地域づくり支援と議会改革に向けた方向性を以下の 3 点に整理・考察する。

1.「アウトリーチ（出向く）型議会活動」の強化とマルチチャネル対話を推進する

住民は単なる形式的な会議の増設ではなく、既存のサロンや集落行事、公民館への議員の自発的な参加を求めている。公式 LINE や町のホームページ等による各地協・集落の行事スケジュールの可視化を進め、議員が日常的に現場へ足を運ぶ仕組みを整備することが有効である。その際、グループ⑤が提言するように、住民の生活スタイルに合わせたアナログとデジタルの最適な組み合わせを追求しつつ、対面対話によって心理的距離を縮めるアプローチが重要となる。

2.「個人受容」から「議会全体での議員間討議・検証」へ

議員個人が地域の要望を持ち帰るだけに留まらず、全議員で地域課題を共有し、テーマ別（教育・福祉・防災・高齢化・空き家対策等）に議員間討議を深めるサイクルを確立す

ることが求められる。地域の声を行政チェックや政策提案・検証へと高めていくことが重要である。また地域づくり協議会の議論を議会全体の議員間討議に反映させる仕組みが期待される。

3. 多様な主体の参画促進と活動負担の適正化を図る

地域の担い手不足を解消するためには、従来の役員層だけでなく、PTA、子供会、女性、若者層との接点を増やす必要がある。政策ワークショップや「声ポスト」、SNS・Zoom等の活用により多様な意見を収集する（議会活動や議員活動を含む）と同時に、グループ⑤の意見にあるよう、「楽しいこと」や「美味しいもの」を取り入れて参加のハードルを下げることが効果的であると考える。また、生活直結課題（防災・見守り・空き家）への活動の優先順位付けとイベント集約を推進し、特定メンバーへの負担集中を防ぐ持続可能な体制構築を議会としても後押ししていくことが求められる。